

忠南大学

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2020年02月17日 ～2020年02月26日	大韓民国	忠南大学	・材料工学科、応用化学 科 ・学部2年生、学部3年 生、学部4年生、修士1年 生、修士2年生、博士1年 生、博士2年生、博士3年 生	(芝浦工業大学) 学生4名、TA1名、教員 1名 (忠南大学) 学生5名、教員1名	野村 幹弘(応用化学科)

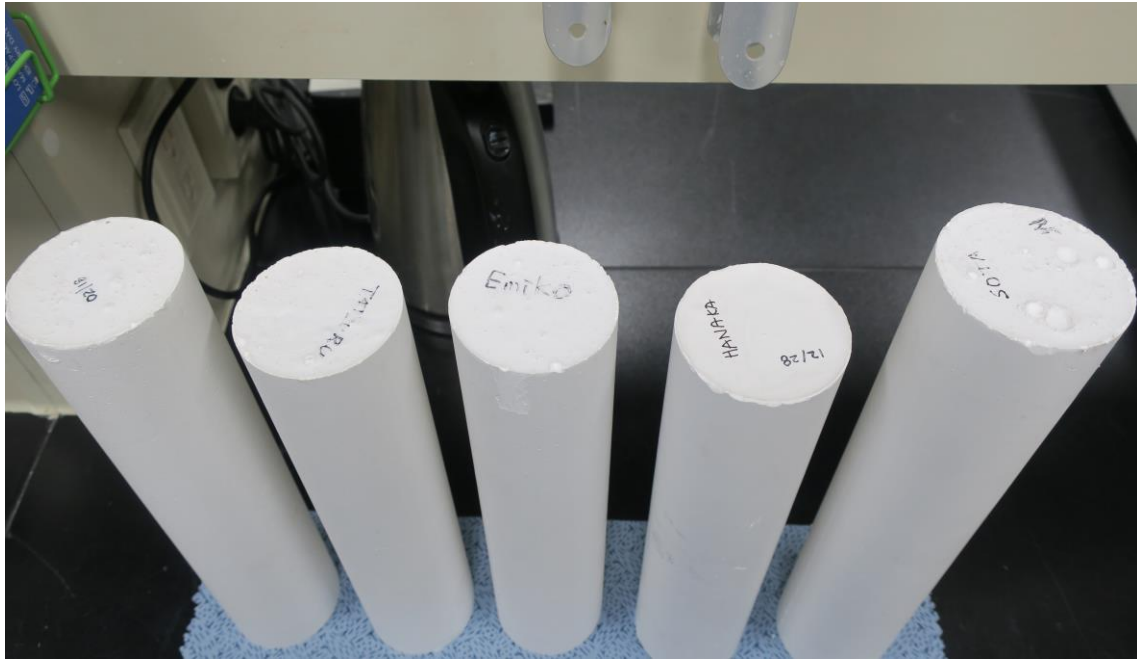


図1 作製したアルミナ多孔質サンプル

2020年2月16日～26日に、韓国大田広域市にある忠南大学にて、送り出しプログラム(19HD015K: 忠南大学(派遣))を行った。受け入れ先は、Graduate School of Energy Science and Technology (GEST)のReaction & Separation Nanomaterials Laboratoryであり、担当してくれた教員はChurl-Hee Cho先生であった。SIT側の参加者は5名で、すべて応用化学科の学生であった。PBL内容は、無機材料の基礎的な分析手法とアルミナ多孔体の作成、そしてプレゼンテーションで構成されている。分析手法では、電子顕微鏡観察、X線回折測定、赤外分光測定、エネルギー分散型X線分析などの実習を行った。アルミナ多孔体の作製では、アルミナ粉末分散液を鋳型に導入し、筒状の成型体を作製した。25日に行われた最終プレゼンテーションでは、自己紹介、韓国の印象も含め、分析手法の原理およびその実践について紹介した。25日夜には、サムギョブサルにてFarewell partyを開催していただき、先方の学生とも交流を深めた。26日には、ソウルに移動し高麗大学のDepartment of Chemical and Biological EngineeringのJungkyu Choi先生の研究室見学を行った。さらに、SITより野村が「Recent development of zeolite membranes at the separation systems laboratory」の講演を行い、研究に関する議論も行った。夜には、高麗大学の学生とも交流会を行い、PBLを終了した。



図2 忠南大学の 実験室の様子



図3 最終プレゼンテーションの様子



図4 Farewell partyの様子



図5 高麗大学での講演会